田尻だより

平成19年
2月号
Vol. 47

次回の田尻便りは
3月発行予定！

暦はもう2月だというのに、雪が降りません。信じられないくらいの暖冬です。農家の間でも、開口一番に交わす言葉は「雪降らねえな」です。

暖冬の年、宮城では夏に低温や多雨に見舞われることがほとんどで、冷害への不安もつのる今年の冬です。

〔本当の不安〕

冬、雪に覆われてしまうと露地では作物が栽培できず、雪かきや雪下ろしなどに追われるため、雪は農家の敵のように見えます。しかし、農家にとっては大切な空の恵みです。

奥羽山脈を真っ白に染めた雪は、東北の遅い春を待ってから、少しずつ少しずつ溶け出します。雨ではなく、雪だからこそできるタイムラグ（時間のずれ）。

だからこそ、真冬の雪が初夏の田んぼを潤す豊富な水になるのです。

かつて、同じように雪が降らなかった年、ポンプで汲んだり井戸を掘ったりする甲斐むなしく、田んぼの稲は枯れ上がったそうです。そんな苦労話を、笑いを織り混ぜながら語り合う農家のおっちゃんたち。もう降らねえのかなと心でつぶやき、最後には無言で山々を見上げていました。

1/20、ビオトープの勉強の為、神奈川県座間市の谷戸山公園に行ってきました。

「生き物の生息空間」を作るビオトープは、公園や学校だけでなく、森林や湖沼の再生活動にも生かされています。

健全な状態とはどういうことか、人は自然とどのような関係を築くべきか、改めて考えさせられました。

このような考え方を、田んぼ作りや地域づくりに是非生かしたいなあと思います。

来暦 ～こめごよみ～

（農閑期のため、お休みです。）

絵と文／小野寺ひかる

嫁日記

人間のタイプを内向的と外交的に二分するとしたら、うちの娘は間違いなく外交的だろうと確信できます。

＊＊＊

近頃、はやと＆やまとが家に帰る時間になると決まって大泣きするので、試しにパジャマと着替えを持たせて一緒に連れ帰ってもらいました。泣いたらかかって来るはずの電話は鳴らず、9時には布団に入って寝たというのです。2歳にして独りでお泊り、迎えに行っても帰らないの一点張り。

＊＊＊

小野寺家で寄り合いをする時などは、「さくらも一緒に」と言って知らないおっちゃんたちの輪に必ず入りたがり、ママを困らせています。